

## 35 オヤニラミ

(ケツギョ科)

兵庫県ランク:C

*Coreoperca kawamebari*

環境省ランク:EN

## 種の概要

全長8cm程度。河川中流域の緩やかな流れに生息する。水生昆虫や甲殻類を食べる。繁殖期は5月で、雄がツルヨシなどの茎を掃除して雌の産卵を誘う。雄は卵を外敵から保護し、また胸鰭で卵に新鮮な水を送り、世話をする。この快適・安全な卵の育児場をムギツクがちゃっかり横取りする「托卵」も確認されている。国内では京都府桂川・由良川水系以西の本州、四国北東部、九州北部に分布する。



写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館(撮影: 増田 修)

## 県内における生息状況及びその他特記事項

県内の日本海側では、1970年に由良川水系(旧市島町)から、1940年代以前に円山川水系(旧和田山町、旧八鹿町)から記録が存在するが、その後の生息情報が途絶えている。現在の生息の中心は、瀬戸内海側の播磨西部、播磨東部地域にあり、生息地点数は比較的多い。一方で、県東部の神戸・阪神地域では現在も生息が見られるものの、分布が局限されている。

## 保護上の留意点

本種は大きな回遊をせず定住性が高いと考えられる。中流域のツルヨシなど抽水植物の繁る岸寄りの穏やかな流れに生息する。このことから、水深のある岸辺に抽水植物が存在し、穏やかな水通しの良い環境を保全、または再創出することが必要である。

## 県内分布

神戸市、三田市、猪名川町、多可町、姫路市、相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、市川町、神河町、上郡町、佐用町、養父市、朝来市、篠山市、丹波市

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

## 主要な選定理由

人為性	激減	
	環境	○
	捕獲	○
	遺伝	
特殊性	特殊	
	孤立	
学術性	極限	
	限界	
	希少	

